

1-A-5. 医薬関連商品の共同物流

<大成建設(株)>

1. 概要

項目	内容
物流共同化のタイプ	同業他社との物流センター共同化 同業他社との配送の共同化 同業他社との幹線輸送の共同化
主な対象貨物	医薬及び関連商品
導入時期	2003年11月
月間取扱貨物量	3,000トン/月

複数の荷主の近接する複数の生産委託工場から近接した共同在庫拠点に直接集荷し、複数の荷主のほぼ共通する届け先へ共同輸送する。

2. 背景（実施理由、狙い、導入の経緯）

1) 実施理由

- ・ 物流コストの削減
- ・ 輸配送の効率化
- ・ 在庫量の圧縮
- ・ トラック台数の削減

2) 狙い

- ・ 一社単独では成立しなかった低コスト輸送手段採用が、複数社の物量を合わせることでより選択が可能となること。
- ・ 更に、専属便化をすることにより、商品の品質管理、トレサビリティ性の向上も期待した。

3) 導入の経緯

- ・ 弊社は、建設業としての共同物流は行っていない。但し、弊社の得意先の物流改善を支援するロジスティクスエンジニアリング及びコンサルティング事業を行っている。また、このような事業の延長線上のビジネスとしてノンアセット型 3PL 事業会社を設立し、複数の荷主企業から倉庫業務、輸配送を受託している。上記事例は、弊社の3PL事業の結果、夫々の荷主が弊社に物流を委託する前との比較で記入した。

3. 対策効果

項目	対策効果 (実施前を100とした場合の実施後の数値: 実施後/実施前×100)
輸送コストの対策効果	20 %
トラック使用台数の対策効果	30 %
トラック台キロの対策効果	20 %
燃料使用量(またははCO2 排出量)の対策効果	20 %

大幅な物流コスト低減の実績は実現しているが、環境負荷低減効果についての定量的測定は未完である。